

「共創・探究型」研修へ



～対話とリフレクションを通して実践を学びに～

千葉県総合教育センター

これからの研修

「令和の日本型学校教育」を担うためには、私たち教師の学びも、「与えられた研修を受ける」という姿勢から、自ら問いを立て、それぞれの課題や日々の実践に即した学びを主体的に作り上げていく姿勢へ転換することが大切です。（答申や提言では「研修観の転換」という言葉が用いられています。）こうした学びの在り方を創出するために、千葉県総合教育センターでは、「共創・探究型」研修をキーワードに、研修の在り方を見直しています。総合教育センターと先生方が「共創型」のパートナーとして、共に研修を創り上げていくことを目指し、教師一人一人の課題や問題意識を出発点とした「探究的な学び」を重視していきます。「対話」と「リフレクション」を通して新たな学びを創出し、千葉の未来を支える先生方の成長を支援します。

仲間と共に

- ・教育観の再構築
- ・探究心を持った自律的な学び
- ・変化に対応する継続的な学び
- ・先生の個性に応じた個別最適な学び
- ・対話やリフレクションによる協働的な学び

研修観の転換



総合教育センターと共に

- ・研修のねらいの明確化
- ・柔軟な研修デザイン
- ・「探究」への後押し
- ・学びの自由度の確保
- ・質の高い対話と内省の創出
- ・学び合いのコミュニティ
- ・ICTの活用

〈協議〉から「対話」へ

これまでの研修では、〈協議〉といっても、意見交換や情報共有にとどまることが少なくありませんでした。千葉県総合教育センターが目指すこれからの研修における「対話」は、単なる会話や話し合いではなく、「自己の考えを広げ深める」ものです。仲間と共に問いを立て、自分自身にも問いかけながら学びを深めることのできるプロセスを大切にします。

新しい気づきや考えを得られるような研修を共に進めていきましょう。



〈まとめ〉から「リフレクション」へ

これまで、研修の最後に〈まとめ〉として感想や反省をまとめることが中心であり、学びを深く振り返るまでには至らない場面も見られました。千葉県総合教育センターが大切にしたい「リフレクション」とは、「自己を見つめる視点」を持ち、研修から得た気づきを、自分のこれまでの経験や考え方と照らし合わせて、新たな問いを発見することです。また、一度きりのリフレクションで終わらず、日々の実践に生かし、次の研修や授業へとつなげていくように、実践とリフレクションを行き来させながら学びを深めていく研修を目指しています。

「実践」を「学び」に

学級経営や生徒指導、授業づくり、評価の工夫など、先生方が日々取り組まれている一つ一つの活動は、すべてが大切な実践です。それぞれの先生が、これまでの経験の中で培われた工夫やアイデアをお持ちです。研修は、そうした日々の実践を見つめ直し、気づき、共有することで、新たな学びへとつなげていく場です。「共創・探究型」研修が、子供たちと先生の笑顔へつながっていくことを願っています。



令和7年度研修の様子

若年層研修における異校種交流など、先生同士が話し合う場面では、対話を意識した進め方や問いの立て方について紹介し、校種の違いを超えて、教師としての思いや願いについて学びを深めました。そこから得られた新たな知見を日々の実践に結びつけ、さらなる学びの意欲へつながる研修となるよう工夫をしていきます。



研修観の転換に向けてプロジェクトチームを発足し、対話を重視した所員研修に取り組んでいます。所員が互いの経験や考えを共有しながら、新たな研修の在り方を模索しています。対話やリフレクションを私たち自身が重ねていくことで、「共創・探究型」研修に一步でも近づけることを目指しています。

